

課題を抱える子どもたちの 早期発見と社会的自立に 向けた支援事業

2023年3月8日

NPO法人 子どもの環境を守る会Jワールド

ひきこもり、発達障害の症状の深刻化予防のための発見基地

➤ 学習・生活支援を行う居場所づくり

要支援児童を発見し、支援ニーズを明らかにして、専門機関、専門家に連携し、必要に応じた支援を実施

対象者: 全ての小中高生

➤ 保護者のための居場所づくり

気軽に来られるカフェを開設し、子育てで課題を抱える保護者の課題を一緒に解決していく

対象者: 小中高生の保護者

➤ 地域共生社会を担う人材の育成

地域ボランティアを積極的に巻き込み、共助の理解を深めながら、要支援者への対応力を向上させていく

実施内容(学習・生活支援を行う居場所づくり)

- 青少年会館という**一般に開かれた場所**で実施
- どんな家庭の子どもたちも来られる居場所
行政が実施する学習支援と違い、**無条件で利用可能**
- **自立に向けて社会性を育む**
 - ボードゲーム、工作を行う中で「ありがとう」を目を見て言えるように、様々な学年の子どもたちの交流など
 - 不登校児童と一般児童との交流→お互いを受け入れ合う



- 対話を生む読み聞かせ
 - 自己肯定感を高める内容の本を読み聞かせ
 - 社会性が身に付く本を読み聞かせ
 - 対話の導入として用い、それぞれの考え、感じたことをアウトプットすることで、コミュニケーション



- いつでも、ふらっと来られる居場所
 - 精神的な敷居を下げる
 - 予約キャンセルの気まずさによる利用の敬遠をなくす
 - 孤独・孤立予防として居場所との繋がりを作る
- カフェ、手芸工作できる居場所
対話をしやすい雰囲気を作り、利用者に居場所への所属感を持ってもらう



不登校児童の親子の誕生日祝い



地域ボランティアと不登校
児童の保護者の交流

- 学習・生活支援を行う居場所づくり
 - 居場所づくりが周知され始め、不登校児童の親子1組(目標20名)、一般児童5名ほど(目標16名)が定着し、利用者数が増えつつある
 - 読み聞かせなどを通して、子どもたちとのコミュニケーションが深まりつつある
 - 協働で行う松戸市教育委員会からの信頼が強まった松戸市教育長への報告を年度内に予定
- 保護者相談のための居場所づくり
 - 不登校児童の保護者が定着。両親共に利用するようになり、彼らに必要不可欠な居場所となっている(本人談)。
 - カフェ、手芸を通じて、保護者の子育てに対する悩みや、家庭の様子を自然な形で話してくれるようになった。

- 子どもの利用者の増加
青少年会館利用者は、習い事やゲームをしている子が多く、ボードゲームや工作にあまり魅力を感じていないよう。
- 保護者の利用者の増加
見学に来られる方はいるが、利用に至らない。学校、スクールソーシャルワーカー(SSW)に案内の状況を教えていただく。
- プログラムについて
 - 利用者の利用時間帯がバラバラで、遊び、勉強プログラムが立てづらく、子どもたちの成長に適したものを提供しにくい。
 - 教育委員会のコロナ禍対策で、青少年会館での食事ができないため、お菓子作りやご飯作りなどの調理体験ができない。
- 人材確保と開催日数
週3回を予定していたが、利用施設の制限のため、週1回で開始。現在は、他事業との兼ね合いで、週3回のスタッフの確保が難しい。

- 利用者の増加

- ▶ 子どもたちは、実は関わりを求めている。利用者でなくても、スタッフが声かけしていると、街中で出会ったときに名前を呼ばれるなど
→ 少しずつ信頼関係を築き、距離を縮めていく
- ▶ 教育委員会、学校、SSWとの関係を深め、居場所への連携を促す
- ▶ 地域ボランティアが繋がっている保護者とスタッフが関係を深め、さらにその友人、知人へと口コミでも利用を促していく

- 支援プログラム作り

教育委員会にこれまでの成果報告をし、今後について協議し、最適な支援プログラムを作り上げていく

- 開催日数

ボランティア育成に力を入れつつ、要支援者のニーズに合わせて、半日開催などで徐々に増やす試みをする。